

佐賀新聞 2009(平成21)年5月7日(木) ひろば欄 私の主張

21 ひろば 2009年(平成21年)5

この四月、十一年間勤務した名護屋城博物館から県立博物館・美術館に異動した。資料調査や打ち合わせなどいつも来ていたところだが、館内外の隅々を見て回ったことはなかった。

昼休みに館の周りを歩いてみた。古賀忠雄の彫刻があららに据えられ、茶室「清惠庵」があり、シャージュやネクタイ姿の人がウオーキングシューズで足早に通る。小さな子どもとお母さんがシャボン玉公園に向かう。ケヤキ、クスノキ、ヤマモモ、ツツジ、モミジ、カエデなど、緑豊かな大木が数え切れないほど立っている。博物館の森の小道は、木陰が気持ちいい。

博物館の東側の庭に「縄文アラカシ」と名札の付いた十以上の大木

私の主張

ゆったりと至福の時間を

浦川 和也(佐賀市)

に移管されて、五十年に鉢から現在の場所に植え替えられたものだ。約四千年前の種子が発芽したとして当時話題となった。古代のロマンを感じる木だ。

県立博物館では、この縄文アラカシの前で、三年前から「あらかしコンサート」博物館の小さな森

がある。これは、昭和四十一(一九六七)年に西有田町(現有田町)の「坂の下遺跡」(縄文時代中・後期)で出土したアラカシの表が、翌四十三年七月に発芽し、佐賀大

学農学部や県の林業試験場で育てられ、昭和四十五年(一九七〇)年に県立博物館

の音楽会」を開いており、第十回目のコンサートを八日に開催する。

今回の演奏は、福岡で音楽教室講師や楽団で演奏活動をされている「トリオ・ドウ・キャンフリエ」の三人。クラリネットの白水摩由

は無料で鑑賞いただきたいが、演奏者の方々にも、鑑賞者の方々にも人気が高いそうだ。アラカシ広場の小さな空間で、演奏者と鑑賞者の一体感がいい雰囲気を出すといい。今回のコンサートの担当として準備してきたが、実は、私も初めてで楽しみにしている。

現代に生き返った縄文アラカシの前で、わずか一時間のミニコンサートだが、ゆったりと、また心豊かな至福の時間を過ごすしてみたいかがだろうか。

あらかしコンサートは、県立博物館東側の屋外展示場「アラカシ広場」で、八日(金曜日)午後六時三十分からの一時間。参加無料。問い合わせは県立博物館0952(24)3947。

(県立博物館学芸員、四十三歳)